事前分科会：

三段階突合の入り口

2023.4.23 於　リネットジャパン
2023.5.9 岸田会計事務所

「ＱＲコード」印字による検収現場での売上・買取り確定作業
DX・AI化のインフラ作り

リネットジャパングループ
元 ㈱デンソー　野村政弘
リーンランド研究所　鈴木雅文
岸田会計事務所　岸田賢次
SCCC協議会　河田 信

経産省　DXレポート　（2018．9．7）“2025年の壁”　突破

キーボード文化のなかった日本の特徴

「ＱＲコード」導入による
キーボード文化を超える業務改革の実現

① 受入・出荷業務の改革による人員削減
（２００万人規模）
② 取引代金支払いのリアルタイム化の実現
（SCCC 資金回転率の大幅な短縮）
③ 工場のDX化の急発進

中小企業200万社へパソコン支給で
（2000億円超の投資が必要）

資金循環速度改善10%/年で
（＋55兆円・年のGDP増加）

リアルタイム情報活用によるDX化で
（＋12兆円／年を超える増分経済効果）

現状：受発注業務がFAXまたは手書きの中小現場業務

発注業務がFAXまたは手書きで行われている現場では

入荷・受入や売上・出荷の業務は殆どが目視チェックで行われている

バッチ作業による
キー入力

買掛金登録
支払請求書
（確認チェック）

週・月まとめ
処理

売上処理
在庫台帳更新
支払請求書発行（インボイス）

適格請求書対応
「岸田アプリ」有り

三段階の入・出荷情報が現場でリアルタイム化されると

注文書にＱＲコードが印字されると、出荷受入の業務がワンタッチ型に改革され、大幅な省人化と情報のリアルタイム化が実現。

注文書へのＱＲコード印字のみで実現

（野村アプリ）

（岸田アプリ）

オンラインで事務所に送る
（リアルタイム化実現）

オフィス

買掛金登録
支払請求書
（確認チェック）

売上処理
在庫台帳更新
支払請求書発行（インボイス）

（（GWアプリ）

ZEDI入金システム ⟷ EDI ⟷ ZEDI支払システム ⟷ 入出金段階（GW Echo Change）

野村アプリ：三段階中の第一段階：検収現場伝票のＱＲコード印字による大変革

手順

① 受注：客先の発注票のQRを先に読み込ませておく。

② 出庫：製品倉庫から製品を出庫する

③品番・数量チェック：現品票に添付されているQRを読み取らせる

④ 出荷：QRコード付き納品書、受領書を発行し現品と共に出荷

⑤ 自社用伝票発行：QR付き売上伝票も自動発行する。

⇒　出荷マンが一番気にして神経を使う、異品・欠品のチェックも完全に自動で結果を出してくれて、安心して出荷するワクワク現場。
　（省人化300万社の67%200万人規模）

⇒　現場の月次バッチがリアルタイム処理となり、BtoB資金循環速（SCCC大幅短縮）

⇒　工場内に、受発注のリアルタイムデータの提供で、工場ＤＸ,AIK化（生産・調達・経理システムとの完全連携）

現場用野村アプリ：オフィス用岸田アプリとの「併せ技」でDX化へ

＜発注側の＞簡易版 仕入先別　部品発注入荷台帳　（現場のPCで、目視から自動管理へ）

QR付き発注票の（自動）記入項目

仕入先から納入時（自動）記入

仕入先から請求時（自動）記入

仕入先コード	受入ヤード	品番	品名	数量	単位	発注No.	発注済	納入No.	納入日	数量	単位	請求日	請求書No.	支払完了	備考

発注側現場のPCにより、生産計画台帳（マスター）書の要手配日に従って、上記項目をQR付き発注書を自動発行し、受注側に送付する。

＜受注側の＞簡易版QR付き現品票　作成台帳　（現場のPCで、目視から自動管理へ）

工程番号	品番	品名	数量	担当者	置き場ロケ	作成日	備考

受注側の所有パソコンで部品倉庫は、現品生産完了時現品票に上記項目に基づくQRコードを自動貼付する。

⇒　発注側より受理した発注票のQRと内容一致しておればOK。

⇒　納品書、受領書を発注側に送付自社向けに、売上伝票も作成。

⇒　現品票と発注票と不一致であれば、現品の取り出しミスなので現品出し換えて、再突合

仕入先から請求書を受け取った事務所は　そのまま現場側に請求書を送り「本当にこの製品は当社で買ったものか（つまり代金を支払っても良いか）のチェックをしなさい」と現場に回し、それを受けて現場は、１点ずつ納品書と請求書をチェックをすることになる。野村アプリは、このような受発注双方の現場にとり残された「目視突合作業」の完全自動化を狙う

次の展望：工場内DX化が一気に促進する（例：デンソー）

入荷情報と出荷の情報がリアルタイムで収集されると
工場内の生産情報が殆どリアルタイム化され、工場のDX化が急速に進展する。